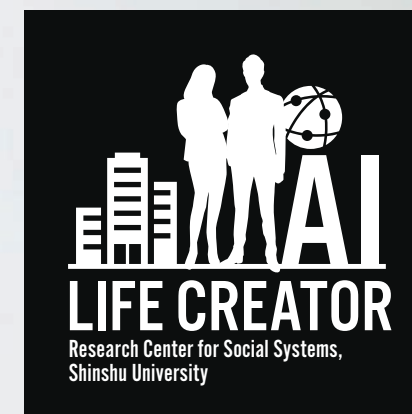




知識集約型社会を支える
人材育成事業 (DP)
Human Resource Development Project
for Supporting Knowledge-Based Society



信州大学
先鋭領域融合研究群
社会基盤研究所



これから長くAIと共に暮らすことになる君たちは、AIに支配されるのか、
AIを活用して人生を切り拓く人材（ライフクリエイター）になるのか？
ライフクリエイター人材養成コース

信州大学が育成する人材像の基本



信州大学は、その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

教育

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

研究

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

地域貢献

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

国際交流

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。

第4期中期目標における法人の基本的な目標

信州大学は、信州の豊かな自然と文化の中で、自然環境の保全、新しい文化の創造人々の健康と福祉の向上、産業の育成と活性化などを目指し、世界の多様な文化・思想を理解し共生する力や自立した個性を大切にしつつ、優れた教育研究を行うことによって大学に求められている社会的使命を果たすことを理念としている。この理念のもとに、第4期中期目標期間においては以下の6項目を基本的な目標として設定する。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/philosophy/mission/>

- ① 教育～信州を学び、未来を拓く人材の養成～
- ② 研究～知の創造をつむぐサイエンスプラットフォームの構築～
- ③ 社会連携～持続可能な進化型社会連携の実現～
- ④ グローバル～信州エクセレンスをグローバルに繋ぐハブへ～
- ⑤ 大学経営～あらゆる変化に柔軟に対応できる大学経営の推進～
- ⑥ 医療～高度医療及び先進医療の安全な提供～



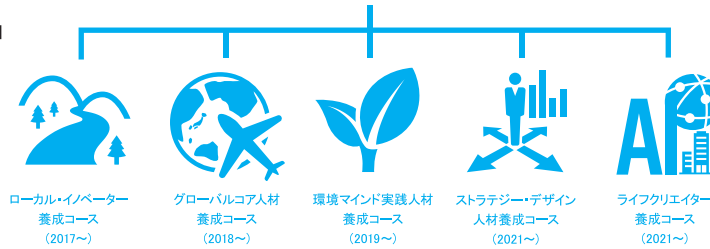
全学横断特別教育プログラム



概要

信州大学には、様々な学部が一緒になって横断的に学べる「全学横断特別教育プログラム」があります。学部・学年を超えたコースに所属し、「地域」「世界」「環境」「データサイエンス」「AI活用」の未来を考える力やアントレプレナーシップ(起業家精神)を学ぶ特別な教育プログラムです。他学部の同期生や先輩と交流しながら、地域や世界で先進的な取り組みをおこなう人達からリアルな課題を学びます。現場の中で必要な問題分析や課題設定スキル、アイデア創出やコミュニケーションスキルなどを身につけることができます。

全5コース



- ① 学部や学年を超えた学の交流
- ② +αの実践や学の広がりを求める学生へ
- ③ 2017年開始。
- ④ 副専攻的にコースに所属。
- ⑤ アントレプレナー、高度キャリア人材を育成

ローカル・イノベーター養成コース

—地域のみらいを考える力を学ぶ—



地域社会の現場(ローカル)が抱える問題を的確に分析し、革新的(イノベティブ)な解決策を考え、実践するための力を身に付けるコースです。新しいことに取り組む企業や行政からお招きする一流のイノベーター人材による指導を受け、地域の現場での課題解決に取り組みます。

新事業創出を授業で実践

社会で活躍する第一級の実務家教員による講義、500人以上が参加するイベント等の企画・運営を学ぶ科目があります。3年次には地域企業等でのリアルな問題解決インターンシップに参加します。

グローバルコア人材養成コース

—グローバルに活躍する—



海外・国内におけるグローバル環境で、組織のコア人材として活躍できる素養、能力、教養を身につけ、主体的に協働できる人材の育成を目指します。「BASICコース」と、BASICコースを修了した高年次生を対象とした「ADVANCEDコース」があり、履修生は海外研修への参加が必須となります。

海外研修でグローバルを実感

講義で国際感覚を養ったうえで海外研修に参加し、グローバルを体験します。修了要件にはTOEICスコア等もあり、グローバル人材の素養を身に付けます。

環境マインド実践人材養成コース

—持続可能な社会づくりを学ぶ—



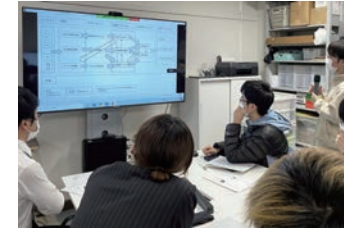
環境分野の幅広い課題の基礎知識を身につけ、SDGsや、持続可能な循環共生型の社会構築を意識して、課題解決の考え方を学びます。専用科目は講義と集中ゼミを行い、実社会での環境分野の課題・取組内容を企業や自治体などの実務者から直接学ぶ機会や実習・演習を含みます。

環境マインドをフィールドで学ぶ

信州や海外のフィールドを訪問し、「環境」に関して起こっていることを合宿・研修による現場体験で学びます。環境問題をSDGsの17のゴールと絡めて考え、自分の言葉で説明できる授業を行います。

ストラテジー・デザイン人材養成コース

—戦略的なデータ収集・活用を実践的に学ぶ—



人々の「共感」を引き出す力である経営戦略や政策策定、事業評価に必要な思考法とデータ活用力を身に付けるコースです。妥当性や信頼性の高いデータを収集するためのリサーチ・リテラシー、ロジックモデル等について、企業や行政と連携して現場に入り、リアルなデータ分析を実践します。

産学官共同で学ぶ戦略的データ

企業・自治体の実際の課題に対し、データを戦略的に活用して解決に取り組む授業を行います。3年次にはインターンシップに参加し、データを活用した企業経営や政策策定を実地で学びます。

ライフクリエイター養成コース

—AIツールを使いこなし社会的課題を解決する—



AIの利活用は理系の知識だけではなく、法律や倫理、ビジネスなど、様々な専門知識が必要になります。他の学部の学生と共同で情報を分析し、問題解決できる能力を養い、AIをより有効に利用出来る力を培うことにより、自ら未来を創造する能力を有する人材を育成します。

アイデア・ビジネスコンテストで実践する

講義やゼミで学んだAIの知識を実践する、アイデアビジネスコンテストに参加します。日本ディープラーニング協会のG検定取得も目指せます。

プログラム運営主体 社会基盤研究所

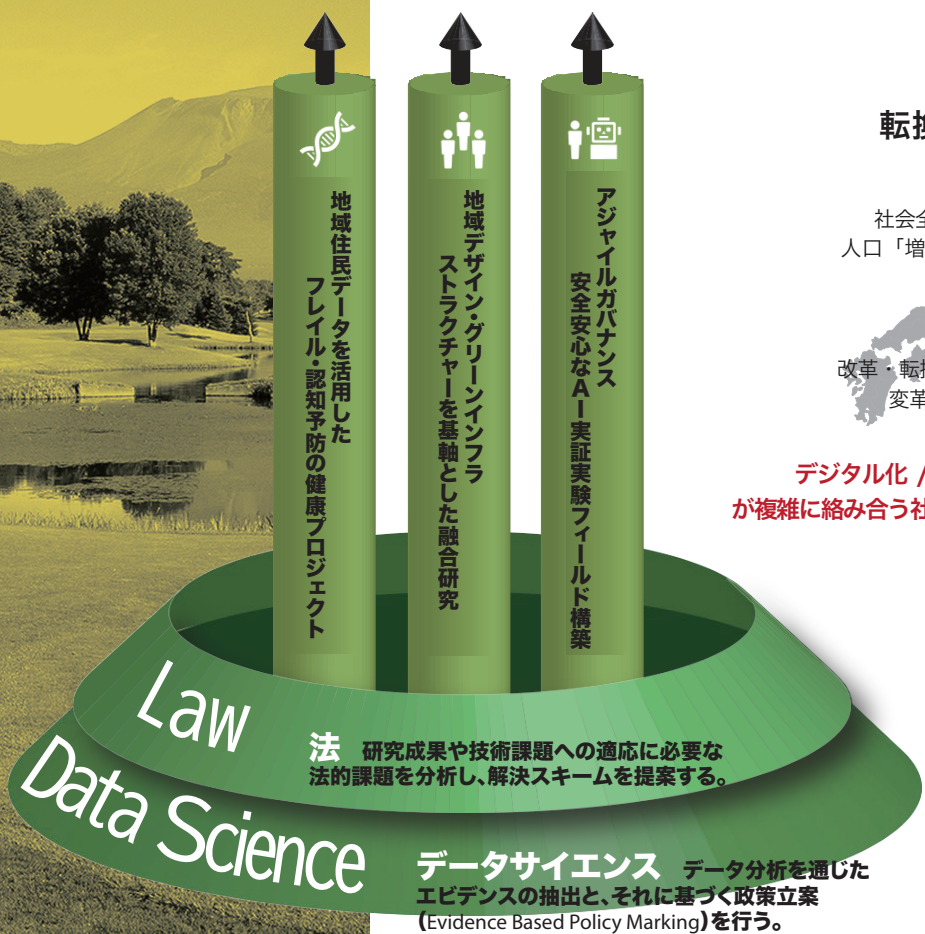


社会基盤研究所が目指すもの：オール分野の知を融合した未来社会へのシステムチェンジ

従来型社会システムを次の100年を見据えて進化（システムチェンジ）させ、シン・シャカイ（新社会）の構築に向けた基盤（駆動力）を創造することを目指す。

地域社会・市民を研究のベースとして実行力のある研究組織を運営し、全分野の研究者が集合することで学術変革を次々と創発させながら、技術と人が調和した未来社会を創造していく。

融合研究による人間中心の調和のとれた未来社会の実現

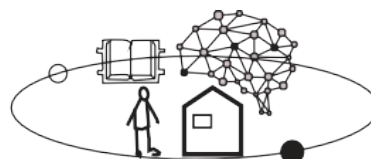


転換期を迎えた日本社会

社会全体の『共通前提』が崩壊
人口「増」社会から人口「減」社会へ

モデル無き時代へ
改革・転換期にある政治・行政システム
変革を求められる経済・社会

デジタル化 / 技術進歩により様々な社会問題
が複雑に絡み合う社会ではトランスディシプリナリーな
アプローチが必要



Research Center for Social Systems

異分野融合による学術変革の創造と新規共同研究（事業）の創出



ライフクリエイター人材養成コース

時代が求める、AIスキルを持ったライフクリエイター人材の必要性



知識集約型社会を支える
人材育成事業 (DP)
Human Resource Development Project
for Supporting Knowledge-Based Society



背景

- ◆ 地域の課題は、複合的な問題が複雑に絡み合い引き起こされているため、一つの専門分野では解決できない
- ◆ 情報がAIによって制御されて、個々人に届く情報が偏在化し、情報により人々が組織や社会に支配される危険性

AIスキルを持ったライフクリエイター人材の必要性

- ◆ 各専門分野に軸足を置きつつも、自らの専門分野の範疇を理解した上で、他の専門分野と共同して、問題を解決できる能力
- ◆ 情報を多角的に分析・取扱い、AIスキルにより未来を創造する能力

文理融合型のAI人材の育成と全学教育改革の実現と
深刻な地方のAI人材不足の解消



育成する人材像

2

学際協働力を有した人材

各専門分野に軸足を置きつつも、自らの専門分野の範疇を理解した上で、他の専門分野と協働して、問題を解決する人材です。

1

AI (データサイエンス) ジェネラルスキルを有した人材

AIの技術的な理解だけでなく、歴史や法学、知財、現代的課題など、文理を超えてAIを活用する人材です。

3

社会実装力を有した人材

協働して創出したアイデアをベンチャービジネスや社会の多方面で活用する「社会実装力」のある人材です。

4



現在第三次AIブームと言われる中で、私たちは知らず知らずの間にAIに囲まれて暮らしています。AIによって様々なものが便利になる中で、AIを活用出来る人材の大幅な不足も叫ばれています。

AIの利活用は理系の知識だけではなく、法律や倫理、ビジネスなど、様々な専門知識が必要になります。本学で2021年度から新たに始まる文理融合型の全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」では各専門分野を学びながら、他の学部の学生と共同で情報を分析したり、問題解決できる能力を養い、AIに振り回されることなく、自ら未来を創造する能力を有する人材を育成します。

カリキュラム構成とねらい

入門から応用、実践までの一貫プログラム：AI ジェネラルスキル、学際協働力、社会実装力と地域課題解決方法

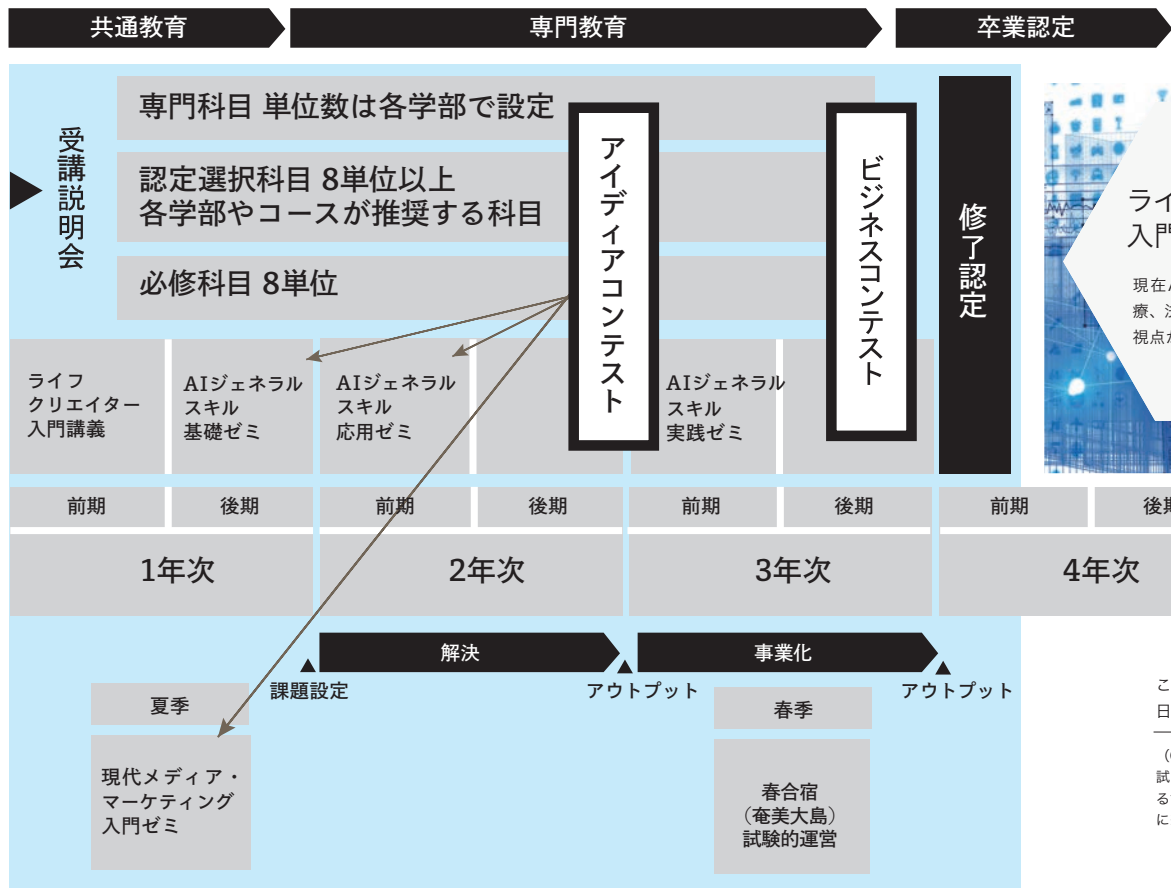
学部横断型の教育プログラムのため、「ライフクリエイター人材養成コース」は信州大学先鋭領域融合研究群社会基盤研究所が運営を行います。

各学部にて一人研究所のコーディネータ教員を置き、履修指導や学習指導を行います。



全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」カリキュラムマップ

学部による専門教育と並行して学部横断型のAIスキル獲得に向けたカリキュラムを構築（2023年10月 最新版）



ライフクリエイター入門講義 (1年前期)

現在AIの基本的な考え方を医療、法律、倫理、職業など様々な視点から学習します。

AIジェネラルスキル基礎ゼミ (1年後期)

AI発展の歴史を振り返り、現代AIの重要な技術である深層学習の基礎を学び、それが我々の生活にどのように関わっているのかを学習します。また全学横断チームで身近な課題を題材にアイデアソンを行い理解を深めます。

AIジェネラルスキル応用ゼミ (2年前)

課題や問題事例をもとに柔軟に対応する知識やスキルを身に付けます。

4年次

ライフクリエイター実践ゼミ (3年前期)

地域データを収集し、エビデンスをもとにAIによる分析を行いながら、課題の解決方法をビジネスとして提案します。

特別関連授業

現代メディア・マーケティング入門ゼミ

メディアの発信側の考え方や背景にあるマーケティング理論を学ぶことで、TVやSNSで流れる情報を的確に取得して、正確に分析できる、ライフクリエイターにとって必要な能力を身につけます。

より現実的なコンテスト実施も特色のひとつ

- ◆アイデアコンテスト
地域の課題に対して政策における解決方法を提案するコンテストを開催し、行政での政策への採用を目指します。
- ◆ビジネスコンテスト
地域課題の解決方法を社会実装する模擬ベンチャー企業を立ち上げて、事業計画を作成し、起業家、投資家による評価を行い、企業価値を算出します。

これらの学習を通し、取得者はAI人材と見なされる日本ディープラーニング協会が実施するG検定取得を目指します。

(G検定の紹介) 一般社団法人日本ディープラーニング協会(JDLA)が実施する検定試験で、「ディープラーニングの基礎知識を有し、適切な活用方針を決定して事業応用する能力を持つ人材」であることを示すもの。2017年に始まった試験で、2020年末までに約35,000人が取得しており、就職や転職のために取得する人も多い。